

大阪大学 図書館報

Vol.36 No.3 (2002年12月)

目次

「國本文庫について」	-----	1
電子図書館への招待⑤	-----	3
教官著作寄贈図書	-----	7
お知らせ	-----	7
会議・日誌	-----	10

「國本文庫」について

藤本 和貴夫

この度、元大阪大学名誉教授、故國本哲男先生のご遺族より大阪大学図書館に寄贈を受けたロシア・スラヴの歴史と文学に関する図書を中心とする「國本文庫」について簡単にご紹介させていただきます。

國本先生は、大阪大学言語文化部ロシア語教育講座教授としてロシア語圏の言語文化の教育研究に、さらに同時に大学院文学研究科の西洋史の授業を担当して、ロシア史の教育研究に長年たずさわり、昭和63年3月に停年退官、大阪大学名誉教授の称号を授与されました。しかし残念なことに平成8年3月に逝去されました。

先生は広島陸軍幼年学校の時代からロシア語を専門とされ、戦後は大阪外事専門学校ロシア語科、京都大学文学部史学科、同大学院経済学研究科で学ばれており、戦後、日本で始まった学術研究としてのロシア史とロシア文学研究の草分け的存在であり、その第一人者でありました。そのことは、先生が収集された図書に反映されています。

この度の「國本文庫」は、第1に、先生のご専門であったロシア国家の成立期からロシア中世にいたるロシア史関係の研究書と多くの史料集からなっております。しかもその範囲はロシ

アのさまざまな「年代記」の研究書、スラヴ・ロシア語の歴史文法を含む言語学の研究書、旧ソ連の諸地域で行われた発掘調査書を含む多くの考古学の文献から古銭学、文献学など広範な関連諸科学の分野をカバーしており、ロシア史のみならずスラヴ・ビザンツの歴史を研究するためにも貴重な文献を集めた注目すべきコレクションといえます。

大阪大学が継続して購入している『ロシア年代記全集』は、長年にわたってソ連・ロシアで刊行が続けられてきているもので、ロシア国家の起源が述べられているとされている『過ぎし歳月の物語』（原初年代記）をはじめさまざまな年代記が厳密な考証のもとに収録されています。このシリーズは、ロシア国家の起源から中世ロシアの研究まで、その利用範囲がきわめて広い基本的な文献にあたるものです。國本文庫にはこれら年代記のさまざまな研究者による研究が数多く集められています。

日本では、これらの「年代記」を原典から日本語に訳すために「古代ロシア研究会」が組織されて翻訳が続けられていますが、その初代会長に就かれていたのが國本先生でした。したがって國本文庫には年代記に関するさまざまな研究者によって書かれた多くの研究書が含まれているのが特徴です。また、これと関連してスラヴとビザンツとの関係についての文献も集められています。

古代研究には、文献研究と並行して発掘調査など考古学の立場からの研究が必要となります。ソ連時代には国家的事業としてソ連各地で多くの発掘調査が行われていますが、國本文庫にはこれら発掘調査の報告を集大成したルイバコフを責任者とする『考古学調査報告書』をはじめ、さらにそれら考古学の研究成果が中・高等学校向けの教科書や一般の啓蒙書などにどのように反映されていたかを知ることのできる数多くの著作が集められています。古ルーシ研究のための多くの基本文献がここに集められているということがいえるでしょう。

また年代記とは別に、同時代の英雄叙事詩である『イーゴリ遠征物語』の数多くの研究書、ロシア口承文芸の重要なジャンルのひとつとされる『バイリーナ』を集めた諸版があります。

第2の國本文庫の特徴は、ロシア近代文学の祖とされるプーシキンに関する資料と研究書が集められている点ですが、プーシキンを彼の活躍した時代の中でとらえるという、歴史研究と文学研究の総合を目指された先生の姿勢から、ロシア19世紀の歴史と文学を研究するための基本的な研究書と資料集が集中的に集められています。

ここには『プーシキン全集』をはじめ『10巻選集』などさまざまな時期に出版されたプーシキンの著作が集められており、たとえば、『青銅の騎士』についても、出版時期の異なる諸版があります。またプーシキン文学の研究をはじめ、プーシキンに関する回想録、プーシキンの使った言語やプーシキンに関係する土地などの研究、さらに彼に関して書かれた絵画、著作の版画、地図など、プーシキンを社会的にとらえるために必要とされる数多くの資料が集められ、プーシキン学のための宝庫となっているといえます。

プーシキンと19世紀前半の貴族革命としてのデカブリスト運動との関係は、歴史研究者からだけでなく、文学研究者からも注目されてきましたが、本文庫にはネーチキナの古典的な『デカブリスト運動』をはじめ、多くのデカブリスト運動に関する文献も集められています。

その他、モスクワ、ペテルブルク＝レニングラード、キエフなどロシアの都市史、ロシア建築史、美術史などの著作が集められており、特にペテルブルクに関する図書の充実度は非常に高いものと言えます。

ほぼ1千冊を数えるこれらの図書は、戦後の早い時期から長期間にわたって継続的に収集されたものであり、わが国の図書館ではほとんど所蔵されていないものが多く含まれています。ロシア文学やロシア史に興味をもつ学内外の学

生・研究者に広く利用されることが望まれ、日本におけるロシア学・スラヴ学の教育研究の発展のために多大の貢献となることを期待しております。

なお、大阪大学図書館ではすでに昭和59年に、大型コレクションとして「ロシア語雑誌及び図書コレクション(マイクロフィッシュ)」を収集しています。これは、帝政ロシア、ソ連時代にロシアで刊行された新聞・雑誌類をマイクロフィルムやマイクロフィッシュとリプリント

版で収集したもので、ロシア・ソ連研究のための基本的文献となって大いに利用されてきています。またこのコレクションについては以前に「ロシア語定期刊行物コレクションについて」として本誌にも掲載されています。

國本文庫の受け入れによって、ロシア・スラヴに関する教育研究のための環境がよりととのい、大阪大学図書館がより充実したものになることを願っています。

(ふじもと わきお 名誉教授)

(國本文庫は現在、順次整理中です。整理が完了したものは図書館OPACで検索可能です。)

電子図書館への招待 その5 NICHIGAI WEB

1. はじめに

NICHIGAI WEBは日外アソシエーツの提供するオンラインデータベース・サービスです。全部で9種あるメニューのうち、大阪大学で契約しているのはBOOKPLUS、MAGAZINEPLUSの2種のデータベースで、キャンパス内から誰でも自由に使うことができます。

2. NICHIGAI WEBへのアクセス

図書館ホームページの「データベース・サービスのご案内」<http://www.library.osaka-u.ac.jp/others/database.htm>のページなどからリンクが貼ってあります。また、サイバーメディアセンターのポータルシステムに「DBサービス」というタブがある方は、こちらからアクセスすることもできます。

最初に「NICHIGAI/WEB サービス・メニュー選択画面」が出てきますので、ここで

BOOKPLUSかMAGAZINEPLUSのどちらかを選択します。

3. BOOKPLUSの使い方

(1) 概要

BOOKPLUSは図書の出版情報のデータベースです。収録範囲は昭和元年より現在までに出版された図書で、約180万件が登録されており、随時更新されています。1986年以降の図書には、内容・目次情報、小説のあらすじを収録しています。

(2) 検索

デフォルトの画面は「検索画面 標準」です。この画面で検索できる項目は以下のとおりです。

①刊行年月

無指定の場合は全体を検索します。また、年だけで月まで指定しない場合は、その年のすべてを検索します。片方の欄だけに入力すると、

以下のような意味になります。

例：2000年～[空白]：2000年から現在まで

すべて

[空白]～2000年：一番古いデータから

2000年まで

特定の年または月だけを検索する場合は、両方に同じ数字を入力してください。

②キーワード

書名・内容・要旨中の言葉を部分一致で検索します。単語単位ではありませんのでご注意ください。また、漢字、ヨミのどちらからでも検索できます。カナでキーワードを一つだけ入力すると、ヒット数が大きすぎて検索結果が表示できなくなる場合がありますので、ご注意ください。半角の"で検索語を囲むと、単語単位の完全一致検索になります。

③著者名

フルネームを姓名の順に、漢字またはヨミをスペースを空けずに入力します。姓名の間にスペース、記号等を入れると無効になりますのでご注意ください。外国人の場合も同様です。また外国人の場合は原綴からも入力できます。

④書名

書名中の言葉を前方一致で検索します。編集著作の各編のタイトルも対象になります。途中までしか入力しなくても検索できますが、ノイズが増えますのでご注意ください。完全一致で検索したい場合は、検索語を"で囲みます。欧文タイトル（翻訳書の原題名も含む）は、単語間のスペースをすべて詰めて入力します。

⑤出版社名

出版者名を前方一致で検索します。完全一致で検索したい場合は、検索語を"で囲みます。

⑥ISBN

10桁で入力します。ハイフンは不要です。

また、「検索画面 詳細」を選ぶと、上記に加えて、「NDC」（日本十進分類）、「短編小説のタイトル」、「原著者名」、「原書名」、「形式」、「主題分野」の各項目からも検索ができます。

BOOKPLUSの検索画面（標準）

(3) 検索結果一覧の表示

検索を実行すると、ヒット件数が表示された「再検索画面」に移行します。ここで検索語を追加して検索結果を絞り込むことができます。「検索画面」をクリックすると結果をすべてクリアして最初から検索をやり直すことになります。（「再検索画面」で検索語をすべてクリアして新しい検索語を入れ直し、検索しても「検索画面」からやり直すのと同じになります。）

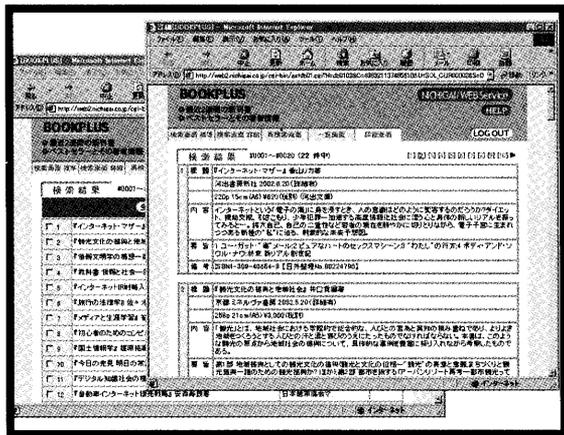
「再検索画面」で「一覧表示」のボタンをクリックすると、結果一覧が表示されます。デフォルトでは1画面20件ですが、50件、100件、200件も選択できます。またソート順も、デフォルトは発行の新しい順ですが、発行の古い順、書名順、著者名順も選択できます。一覧表示画面に移行した後では、この設定を変えることはできません。設定を変えるには「再検索画面」に戻る必要があります。

(4) 詳細画面の表示

詳細を表示するには、一覧表示画面で「全て表示」をクリックするか、見たい図書をチェックして「チェックしたものを表示」をクリックします。両方とも、詳細が表示できるのは現在表示している画面の一覧のみです。複数画面にまたがってチェックを入れて「チェックしたものを表示」をクリックしても、表示されるのはその画面でチェックした図書の詳細だけです。

詳細画面は別ウィンドウで開きます。ここから他の画面に移動はできません。また、一覧表

示画面で「詳細画面」をクリックしても詳細画面にはジャンプしません。



BOOKPLUSの一覧画面と詳細表示画面

(5) 検索の終了

検索が終了したら、必ずLOG OUTをクリックしてください。ウィンドウが複数開いている場合は、どこか一つのウィンドウをクリックしていただき、後は普通に閉じていただければ結構です。LOG OUT をクリックせずに放置しておいた場合は、一定時間の後に自動的にログアウトされますが、同時アクセス数に制限がありますので、その間他の利用者が使えなくなる可能性があります。

3. MAGAZINEPLUSの使い方

(1) 概要

MAGAZINEPLUSは雑誌記事のデータベースです。国内で発行された雑誌や論文集の記事・論文をタイトル、著者名、雑誌名、キーワード等から検索できます。

BOOKPLUSと違って、検索画面は一種類で、基本的にBOOKPLUSの「検索画面 標準」と同じ構成です。BOOKPLUSと違って、データベースは「雑誌記事索引」、「学会年報・論文集」等5つのファイルに分かれており、「雑誌記事索引」「学会年報・論文集」を検索対象を指定することもできます。収録されているデータは以下のとおりです。

・雑誌記事索引 (1975-) 国立国会図書館の

「雑誌記事索引」です。MAGAZINEPLUSのメインになるファイルで、国内最大の雑誌記事データベースです。学術雑誌・専門誌を中心に、約14500誌(中止雑誌も含む)を収録しています。採録誌一覧は国立国会図書館のホームページから参照できます。

- ・記念論文集 (1945-1998)
- ・一般論文集 (1945-1998)
- ・シンポジウム・講演集 (1945-1998) 人文・社会科学分野
- ・学会年報・研究報告 (1945-1995) 人文・社会科学分野。
- ・一般誌・総合誌・ビジネス誌 (1981-)
- ・その他、海外産業・企業誌紙 (1984-最新)、国内経済専門・業界誌 (1981-1995/約1300誌) も採録

同じ記事が複数のファイルに収録されている場合は、検索結果も重複して表示されます。

(2) 検索

検索できる項目は以下のとおりです。

①刊行年月

BOOKPLUSと同じです。

②キーワード

論文タイトル・要旨中の言葉を部分一致で検索します。検索対象が図書全体から個別の記事・論文に変わっているだけで、基本的にBOOKPLUSのキーワード検索と同じです。

③著者名

BOOKPLUSと同じです。

④雑誌名

BOOKPLUSの書名検索と同じです。

⑤出版社名

BOOKPLUSの出版者名検索と同じです。

⑥ISSN

8桁で入力します。ハイフンは不要です。

(3) 検索結果の表示

検索を実行すると、ヒット数が表示される「再検索画面」に変わります。ここから先の表示

形式や操作方法はBOOKPLUSの場合と同じです。詳細画面の表示も同様です。

(4) 国立国会図書館の「雑誌記事索引」と MAGAZINEPLUSの違い

「雑誌記事索引」は2002年より、国立国会図書館がオンライン目録「NDL-OPAC」の一部としてインターネット上で公開しており、誰でも自由に使うことができます。このNDL-OPACの「雑誌記事索引」とMAGAZINEPLUSの雑誌記事索引はデータとしては同じものなのですが、検索方法が少し違います。主な違いは、検索範囲の指定と巻号の指定の仕方です。

MAGAZINEPLUSでは年代を限定せずに全データを対象に検索できますが、NDL-OPACでは2001年～、1996～2000年、1984～1995年、～1983年と検索範囲があらかじめ一定の期間ごとに区切られています。複数の年代範囲を指定することもできますが、検索結果は年代範囲ごとに別々に表示されます。巻号については、MAGAZINEPLUSでは巻号を指定しての検索はできませんが、NDL-OPACでは可能です。

(5) OPAC連携機能

MAGAZINEPLUSの検索結果から大阪大学の所蔵を参照することができます。この機能は、通常のメニューからは使うことができませんが、専用のリンクからアクセスすることにより、利用ができるようになります。

検索・表示については通常のMAGAZINEPLUSと操作方法は同じです。OPAC連携機能を使うと、ヒットした雑誌のデータにISSN(国際標準逐次刊行物番号)が含まれていた場合、詳細表示で「誌名等」のところに「大阪大学OPAC」というリンクが表示されます。ISSNが含まれないデータについては、このリンクは表示されません。

リンクをクリックすると、新しいウィンドウが開き、大阪大学OPACでその雑誌を自動的

に検索します。ただし、ISSNを持つデータにはすべてこのリンクが表示されますので、大阪大学の所蔵があることを意味しているわけではありません。また、所蔵があっても、その記事を掲載している巻号が必ず所蔵されているとは限りません。

ISSN	0013-798X
雑誌名	言語学
刊行所	言語学研究所
発行年	1984～1995
発行日	1984年10月
発行頻度	年1回
発行部数	1冊
発行形態	紙
発行言語	日本語
発行国	日本
発行元	言語学研究所
発行先	言語学研究所
発行先住所	〒565-0871 大阪府吹上区吹上1-1-1
発行先電話	06-6643-3333
発行先FAX	06-6643-3334
発行先Eメール	language@lib.osaka-u.ac.jp
発行先URL	http://www.lib.osaka-u.ac.jp/language
発行先OPAC	http://www.lib.osaka-u.ac.jp/opac

(OPAC連携機能を利用した詳細表示画面ISSNのある雑誌には、OPACへのリンクが表示されている。)

4. おわりに

BOOKPLUS、MAGAZINEPLUSは国内の書誌情報を提供するデータベースであり、一般的な国内の文献の探索には適していますが、特に高度の専門性を持ったデータが収録されているわけではありません。しかし、収録範囲があらゆる分野にまたがっていること、一般的文献から学術論文まで対象も広いこと、そしてすべてが日本語で操作できることから、学生から教職員まで誰にでも使える汎用性を持ったデータベースであるということが出来ます。

なお、MAGAZINEPLUS/BOOKPLUSは、第6地区(大型計算機利用大阪地区)に限り、サイバーメディアセンターから学外へサービスが可能です。詳しくは、サイバーメディアセンター電子図書館掛までお問い合わせ下さい。

(d-lib@library.osaka-u.ac.jp)

(文責：情報サービス課・山崎隆史)

■■■■■■■■ 教官著作寄贈図書 ■■■■■■■■

(2002. 9~12)

本 館	
邑 瀬 和 生 (名誉教授)	Amorphous and microcrystalline semiconductors : science and technology : proceedings of the Eighteenth International Conference on Amorphous and Microcrystalline Semiconductors - science and technology, Snowbird, UT, USA, August 23-27, 1999 / editors, Sigurd Wagner ... [et al.] [Amsterdam] : North-Holland, 2000 他21冊
畑 中 吉 治 (核物、教授)	NEWS 99 : the Proceedings of the International Symposium on Nuclear Electro-Weak Spectroscopy for Symmetries in Electro-Weak Nuclear-Processes : Osaka, Japan 9 - 12 March 1999 / editors, Hiroshi Toki... [et al.] [River Edge, NJ] : World Scientific, 2002 吹田分館にも寄贈
生命科学分館	
高 木 睦 (生物工学国際交流セ、 助教授) (工、助手)	ティッシュエンジニアリングの展望：再生医療関連の産業化動向・日米比較 / 日本生物工学会セル&ティッシュエンジニアリング研究会編 名古屋：三恵社, 2002
村 田 路 人 (文、助教授)	写真集 適塾アーカイブ：貴重資料52選 / 適塾記念会編 吹田：大阪大学出版会, 2002
吹田分館	
澁 谷 陽 二 (工、教授)	Judy先生の耳から学ぶ工学英語 / 野口ジュディー, 澁谷陽二, 杉森直樹著 東京：講談社, 2002.4
片 山 巖 (工、助教授)	Proceedings of the 34th International October Conference on Mining and Metallurgy, 30 September - 3 October 2002, Bor Lake, Yugoslavia / edited by Zoran S. Markovic and Dragana T. Zivkovic Belgrade : University of Belgrade, 2002
吉 岡 宗 之 (工、助教授)	電気回路入門 / 吉岡宗之著 東京：昭晃堂, 2002.10

(敬称略、受付順)

■■■■■■■■ お知らせ ■■■■■■■■

● CA on CD カレント版中止

データベース検索システムで提供している化学系データベース、CA on CD(Chemical Abstracts CD版)のカレント版の購入を、平成15年度から中止することになりました。

これは、学内化学系研究室からの要望により、附属図書館の電子図書館システム専門委員会において決定したものです。

今年度までのCA on CD及びCI on CDのデータ(1977-2002)は、来年度以降もこれま

で同様に利用できます。また、データベース検索システムで提供中のSciFinder Scholarでは、Chemical Abstractsの創刊から最新までのデータが検索できますので、最新のデータを利用される場合は、SciFinder Scholarをお使いください。

ただし、SciFinder Scholarは同時アクセス数が限られておりますので(現在のところ5ユーザーまで)、利用が集中すればアクセスできない

こともあり得ます。1977年から2002までの範囲でデータを検索される場合は、なるべくCA

on CD、CI on CDをお使いください。

●図書館入館システム及び利用者証の変更について

図書館への入館や資料の貸出には図書館利用者票が必要ですが、利用者番号の読み取りには現在OCR方式が使われています。しかしOCRは読取エラーが多いこと、また、学生証の有効活用を図るため、附属図書館ではかねてより磁気カード方式への切替を検討してきました。また、入館ゲート自体も老朽化しており、早急な機器の更新が必要になっていました。

この懸案を解決するため図書館では入館管理システム更新の予算を要求していましたが、このたび予算確保の見通しがつき、本年度末に入館ゲートの機器更新と利用者票の磁気方式への変更が行われることになりました。

この変更により、平成15年4月から図書館の入館・資料の貸出には磁気カードを使うことに

なり、従来の図書館利用者票は使用できなくなります。

学生の方は、学生証がそのまま図書館の利用者票となりますので、図書館が発行する利用者票は不要となります。教職員の方、及び磁気カード方式の学生証が発行されない研究生の方などは、図書館で磁気カードの利用者票を新たに発行いたします。

また、本館の東側出入口、生命科学分館、吹田分館で入館ゲートの工事が行われることとなります。日程は未定ですが、図書館の利用にはできるだけ影響の出ないように計画します。

詳細についてはまた広報いたしますので、図書館ホームページのお知らせ等にご注意ください。

●吹田分館のバリアフリー化工事について

図書館吹田分館の旧館は昭和45年(1970)に建設され、すでに30年以上が経過しています。この建物には玄関ピロティや1階カウンター前に段差(階段)があり、勾配が急なためスロープを設置することができません。また、エレベータが設置されていないため車椅子で3階の視聴覚ホールへ行くことができないなど、バリアフリー化の整備がたち遅れていました。

そのため図書館では、平成14年度重点経費要求として、エレベータ、段差解消機(昇降機)、及び車椅子利用者などのための多目的トイレの設置を内容とするバリアフリー化整備経費を要求していましたが、このたび間接経費二次配分による予算措置がみとめられました。

工事計画は施設部で進められていますが、その実施設計図によると、吹田分館旧館建物のピロティ北側外壁部分に自立型・通り抜け型のエレベータを設置し、1階カウンター前の階段に

は昇降機(段差解消機)を、また3階に車椅子利用者などのための多目的トイレを設置する計画になっています。なお、自立型(建物外部の独立構造物)となった理由は、旧館建物が現行建築基準法の耐震規定をクリアしていないため建物構造物に改造を加えることができないことによります。工事スケジュールは、12月中旬から来年3月末までの予定です。

今回の工事実施にあたっては、建物に隣接する工学部の施設や研究者、学生などに支障がないよう、工事中の騒音、振動、工事車輛の出入りなどについてもできるだけ配慮し、関係者と十分協議しながら行うことにしています。

また、館内での利用についてもできるだけ利用者にご不便をかけないように工事計画を進めます。今後の進捗状況やニュースについては掲示やホームページなどでお知らせしていきます。

●第9回医学図書館協会研究会・継続コース開催

11月27日(水)～29日(金)まで、医学図書

館協会主催、薬学図書館協議会協賛による第9

回医学図書館研究会・継続コースが生命科学分館において実施されました。テーマは「情報化社会における医歯薬系図書館の役割—学習・教育研究への支援」であり、約70名の参加がありました。

研究会においては、野添篤毅氏の特別講演と11名の発表があり、継続コースにおいては、松

下茂氏、殿崎正明氏、北克一氏の講演がありました。研究者データベース、利用者教育、EBM関連、図書館員の専門制、著作権問題、電子ジャーナル、そして大学図書館の機能など、盛りだくさんの発表があり、活発な意見交換が行われました。

●学術雑誌専門委員会設置

平成14年9月、図書館委員会の新しい下部組織として「学術雑誌専門委員会」が設置されました。この委員会は、全学的に電子ジャーナルの導入と冊子体雑誌の重複調整、中止が続く中で、冊子体、電子ジャーナルを含めた学術雑誌に関する諸問題を検討することをその目的とし

ています。

委員は図書館委員会委員の中から、人文系、社会系、理工系、生命系をそれぞれ代表する形で選ばれており、当面の課題として電子ジャーナル導入費用の部局負担等を審議しています。

●平成14年度人文系特別図書、高額参考図書の選定について

10月18日に開催された豊中地区図書選定小委員会において、以下の資料の購入が決定しました。

・人文系特別図書

1. 米軍接収日本文書「日本政府諸機関公文書及び検閲資料」
2. 大正の読売新聞 CD-ROM 版
3. 明治初期政治史料集成 花房義質関係文書
4. 日刊工業新聞マイクロフィルム版 1955-1959

・高額参考図書

1. Encyclopedia of Indian heritage
(インドの遺産：百科事典)
2. 司法省年報(4) 司法省行刑統計年報
3. 産業別「会社年表」総覧
4. Handbook of vibrational spectroscopy
(振動分光ハンドブック)
5. Ullmann's encyclopedia of industrial chemistry
(Ullmann 工業化学百科事典)
6. Encyclopedia of cognitive science
(認知科学百科事典)
7. Harwood fundamentals of pure and applied economics
(ハーウッド純粋・応用経済学叢書)

●NNA 国際情報サービスの開始

アジア・欧州の経済情報を中心とした国際情報を日本語で提供しているNNAのサイトが利用できるようになりました。利用できる主なコンテンツは、「EXPRESS」(世界の最新ニュース)、「POWER ASIA」(アジア各国のニュース、為替・株価動向など)、「POWER EU」(欧州各国のニュース、為替・株価動向など)です。過去のニュースの検索もできます。

大阪大学のキャンパス内からは自由に利用できます。利用するには以下のURLにアクセスしてください。

<http://univ.nna.co.jp/>

なお、利用できるサービスは、大学向けに提供されているものに限られます。メニューに掲載していても利用できない情報もありますのでご注意ください。

■■■■■■■■ 会 議 ■■■■■■■■

図書館委員会

9. 20 (金) 13:00～15:02

1. 図書館委員会の下部組織として、学術雑誌専門委員会の設置を承認し、同専門委員会内規が制定された。
2. 大阪大学の中期目標・中期計画(案)のワークシート作成について、協議した。

電子図書館システム専門委員会

10. 10 (木) 15:00～16:35

1. CA on CDの購入について、審議した。
2. 学術情報発信に向けた図書館機能の改善について、協議した。
3. NACSIS-IR利用の機関別定額制について、協議した。

吹田地区運営委員会

10. 11 (金) 10:00～12:00

1. 電子ジャーナル経費負担等の諸問題について、協議した。
2. 附属図書館の中期目標・中期計画(案)のワークシートの作成について、協議した。
3. 吹田分館の(耐震)改修計画について、協議した。

第1回学術雑誌専門委員会

10. 21 (月) 10:00～12:30

1. 北川委員(工)が委員長に選出された。
2. 平成15年度電子ジャーナル必要経費について、協議した。
3. 平成15年度に購入する雑誌の追加タイトルの選定について、協議した。
4. 平成15年度の部局分担方式の決定について、協議した。

■■■■■■■■ 日 誌 ■■■■■■■■

H 14.	9. 5	国立大学図書館協議会臨時常務理事会	(東京大学)
	9. 20	図書館委員会	(本館)
	10. 3～4	第76次国立七大学附属図書館協議会	(仙台ガーデンパレス)
	10. 10	電子図書館システム専門委員会	(本館)
	10. 11	吹田地区運営委員会	(吹田分館)
	10. 21	第1回学術雑誌専門委員会	(本館)
	10. 29	学術情報発信に向けた図書館機能改善連絡会	(学術総合センター)
	10. 30～31	国立大学図書館協議会理事会・常務理事会	(東北大学)
	11. 12～15	大学図書館職員講習会	(京都大学)
	11. 27～29	第9回医学図書館協会研究会・継続コース	(生命科学分館)

大阪大学図書館報 Vol. 36 No. 3
発行所 大阪大学附属図書館

通巻 145号 2002年 12月31日発行
豊中市待兼山町1の4 06(6850)5070
e-mail: sanko-honkan@library.osaka-u.ac.jp